

会 議 録

会議名	田名地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)	中央区役所 田名まちづくりセンター 電話042-761-0056 (直通)		
開催日時	令和2年11月17日 (火) 19時00分～21時00分		
開催場所	田名公民館 大会議室		
出席者	委員	15人 (別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	2人 (田名まちづくりセンター所長、地域政策担当)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議題 令和2年度まちづくり会議検討テーマについて 3 閉会		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

### 1 開会 (田所恒男副会長)

### 2 議題 令和2年度まちづくり会議検討テーマについて

「自治会加入率の低下をまち全体の課題として対策を検討する」をテーマとし、「地域運営(自治活動)ができなくなると、まちにどのような影響がでるか」という視点で行った前回の検討結果について、その対策を考えるという視点でグループ形式の意見交換を行った。

#### 【1班】

志村 勝美(自治会連合会)  
代田 修(自治会連合会)  
中里 昌弘(自治会連合会)  
柴崎 芳江(連合婦人会)  
田所 恒男(地区社会福祉協議会)  
鈴木 鐵蔵(公共交通整備促進協)  
浅見 泰子(わかな会田名地区)

#### 【2班】

木下 國博(青少年育成協議会)  
金井 勝男(自治会連合会)  
外岩戸 満里子(連合婦人会)  
大谷 政道(田名公民館)  
江成 陽子(民生児童委員協議会)  
田所 昌訓(田名財産管理委員会)  
篠崎 隆司(田名地区防犯協会)  
矢口 君代(高齢者支援センター)

#### <主な意見等>

○新宿自治会では、分譲の戸建住宅が増えている。学校が近いということもあり、若いファミリー層が引っ越してくる。しかし、昔から住んでいる住民の子どもの世代は、新宿に住もうと思っていないので転出していく。地域柄交通が不便で買い物には自家用車が必要である。将来的にはコミュニティーバスなどの運用などを考えていかないといけないと思っている。

○四ツ谷自治会では、例年組長会議を10回ぐらいやっている。今年はコロナ禍で会議を開催していないが、なんとかかなっている。役員等の負担を考え直すきっかけになると思っている。

○田名地域は伝統的な活動が引き継がれており、これが当然のように自治会事業に組み込まれている。

○社協の活動をやっていて思うが、福祉ネットワークを強化することが出来ないかと考えている。自治会が(個人の同意をもらい)個人情報収集して、福祉的なサー

ビスを民生委員と連携して活動をする。活動が充実出来れば、ボランティアセンターも不要となると思う。自治会加入のメリットとして福祉的サービスを売りにすることが良いのではないか。

○自治会活動において、役員などから指示されることに不満を持つ方もいると思う。人間関係がギスギスすると、任期が終わった途端に自治会から離れていってしまう。自治会活動が楽しく活動できることが大切ではないか。

○半在家自治会では、75歳以上の高齢者世帯や母子世帯などについては、自治会費と役員の免除を行っている。

近所の方で、奥さんの具合が悪く、いつもご主人が車で病院に連れて行っている家庭があるが、このような大変な世帯は自治会費を減免するべきと思う。

○コロナ禍で自治会の事業が中止となり、自治会費の使い道の説明が改めて求められるだろう。自治会費の使われ方を含めて予算の透明化をしないといけないと思う。

○私の近所の方(陽原自治会で中年の御夫婦世帯)で自治会に入らない方の言い分としては、「どうしても役員をやりたくないから、加入しない」という人がいる。一方で、「私は、高齢で自治会に協力できないから入らない」という方もいる。

例えば、防災訓練で黄色い小旗の掲出をするとき、「自治会員でなくとも出してもいい」と聞いたことがある。自治会加入のメリットを実感できるようにするのならば、自治会員に限るべきと思う。自治会加入のメリットをよく考える時だと思う。

○自治会加入したいと感じるメリットは人それぞれだから、現実的には難しいのではないか。

○市から資源回収の奨励金が出ているが、そのようなお金を活用して、自治会員にごみ袋などを配布するとメリットになるのではないか。

○滝自治会では、少し前に役員のなり手が見つからない状況が生じ、班を統合した経過がある。担い手不足や負担の軽減に対応するため、班編成を見直すなど、自治会組織を考え直す時期かもしれない。

自治会の役員が1年交代だと、班の統合をやろうとする前に引退してしまい、課題の先送りが繰り返されている。

○地域の一般住民は、自治会加入率が年々低下している現状や、このままでは近い将来に自治会の存続が難しくなることを課題認識していない。まちづくり会議の検

討内容を自治会から情報発信し、地域に周知する必要がある。

○自治会側も役員以外は課題認識をしていない。やはり自治会活動が存在することのメリットだけでなく、自治会が活動できなくなった時のデメリットを整理し、自治会が抱えている危機感を正直にお知らせすべきではないか。

○田名団地自治会は全7号棟の計24本の階段ごとに一人ずつ役員を配置しており、新しく入居された世帯に対し1世帯でも多く自治会に加入していただけるよう現在23人の役員が積極的な働きかけを行っている。この半年間で3～4世帯の新規加入があったが、一方で1世帯の退会を引き金に階段単位で全世帯が退会してしまったこともあり、結果的に加入世帯は増加していない。加入世帯が減少すると役員の輪番が早く負担が大きいと感じる。

また、田名団地自治会では、自治会加入促進策の一環として自治会主催の囲碁やカラオケなどの娯楽活動への未加入者の参加や、自治会集会施設の利用なども歓迎しており、交流を通じて仲良くなってから自治会加入の案内を聞いてもらうようにしている。

さらに、今年度は自主防災組織を強化し、神奈川県 of 団地管理公社と連携し、防災対策備品の整備を進めている。

○堀之内団地は田名団地と同じ神奈川県 of 団地管理公社の物件だが、自治会加入(自治会費は家賃に含む)が入居条件のため加入率は100%だが、自治会活動の実態は個人事情が優先されており活発とは言えない状況であると聞いている。

○清水自治会には戸建住宅や個人経営のアパートが多く、住民の転出入の情報把握が難しい。

●相模原市と不動産関係3団体は、平成25年11月に「相模原市における自治会への加入促進に関する協定」を締結しており、加盟店約900店舗の店頭にて自治会加入を促すポスターやのぼり旗の掲出のほか、不動産契約時の重要事項説明書に自治会に関する事項を設けるなど、自治会への加入案内を行うこととなっているが、効果は定かではない。

○まちづくりセンターの住民窓口では、田名地区への転入者に対して自治会加入の案内をしているのか。

●転入者には自治会加入案内パンフレットを含む転入グッズ一式を手渡しているが、口頭による加入案内は行っていない。例えば、まちづくりセンター入口付近(ロ

ビーや駐車場)で自治会による加入促進キャンペーンを定期的に行ってみてはどうか。転出入が多い繁忙期などの一定期間を輪番で行うことは、自治会の本気度を住民に周知する上で効果的ではないか。

○田名子どもセンターに新しく通い始めた若いママの話では、自分の住む地区の自治会名が分からないとのこと。引っ越してきて半年になるが、近所の方も誰も声をかけてくれないとのこと。組の中に転入してきた人がいる場合は、必ず自治会長や役員が声をかけるようにしたほうが良い。

○四ツ谷自治会では役員が中心となって勧誘を行っているが、地区内の大きな工場等に勤めている若い単身者向けのアパートが多く、勤務時間も不定期で転出入も激しいため接触が難しく、現在は勧誘を行っていない。また、アパートの多くは独自のごみ置き場を設置しており、自治会側も勧誘が難しい。戸建住宅については、新築や転入の情報を基に役員が勧誘している。

●現在の自治会加入世帯のうち、会費徴収には応じるが自治会活動への参加協力は得られない世帯、いわゆる「賛助会員」的な世帯数の実態を把握し、対策を検討する必要がある。

○地区在住の高齢者から自治会退会の相談を受けた時に、その理由を確認したところ、自身で回覧板を隣家に届けることが体力的に困難となり、迷惑をかけることが心苦しいとの話だった。その時はもちろん手助けをするので思いとどまるよう説得して退会を防ぐことができたが、このような高齢者こそ自治会の支えが必要だと感じた。現在の自治会では同様のケースが生じた場合にどのような対応をとっているのか確認したい。

○自治会長の時に高齢を理由に役員を免除してほしいとの相談を受けたが、清水自治会としての免除基準等が決まっていないことから、組の中で相談するように案内した。結果的に組の中で了承されて役員を免除されたと認識している。役員免除については各組の事情もあるため、自治会の統一ルールとすることは難しいと感じる。

○田名地区は子ども会が多く解散している状況なので、地域で子どもを見守り育てる環境整備が必要ではないかを感じる。子どもの活動を通じて親世代の交流に繋がり、自治会活動の参加へと繋がるのではないか。まずは子どもたちを対象に魅力的なイベント等を自治会の力で実施し、新たな交流の場を掘り起こしてはどうか。

○昔は夫婦交代で平日も休日も子ども会活動に関わっていたが、時代は変わり、共働き世帯なども増えた。子ども会は保護者の役員負担が解散の一因となっている現状があるため、保護者が仕事をしながらでも関われる新たな活動を、自治会が中心となり考える必要がある。

●この課題は自治会長会議の場で議論されていないため、現役自治会長は課題を認識していない。まちづくり会議の検討状況を地区連役員から自治会長会議に報告してもらい、今後は地区連を中心に議論を進めたいと考えている。

○まずはまちづくり会議の検討状況を自治会長会議に報告する。各自治会において検討してもらい、まちづくり会議と連携して一緒に考えていければ良いと考える。

田名地区は伝統的に自治会長の任期を1年としている地区が多く、自治会長としての経験が浅いため会議での発言が消極的なところがあるが、各自治会長も自身の地区では活発に活動を展開していると思うので、地区連としてもこの課題としっかり向き合って議論を進めていきたい。

●本日までの検討経過をまちづくり会議役員会において整理し、田名地区自治会連合会へ報告し、検討の場を設けて頂くこととする。

●次回12月15日（火）に予定している定例会議は中止とする。1月以降については役員会で協議し、中止の場合に限り連絡する。

### 3 閉会

以 上

## 令和2年度第3回田名地区まちづくり会議委員名簿（敬称略）

令和2年11月17日

	団体名	役職	氏名	出欠
1	田名地区自治会連合会	会長	志村 勝美	○
2		副会長	代田 修	○
3		副会長	金井 勝男	○
4		会計	中里 昌弘	○
5	田名自治会連合婦人会	会長	外岩戸 満里子	○
6		副会長	柴崎 芳江	○
7	田名公民館	館長	大谷 政道	○
8	田名地区社会福祉協議会	会長	田所 恒男	○
9	田名地区民生委員児童委員協議会	会長	江成 陽子	○
10		民生委員児童委員	首藤 幸治	
11	田名財産管理委員会	会長	田所 昌訓	○
12	田名地区公共交通整備促進協議会	事務局長	鈴木 鐵蔵	○
13	田名地区防犯協会	幹事	篠崎 隆司	○
14	田名地区青少年健全育成協議会	会長	木下 國博	○
15	P T A田名中学校区三校合同会議	代表（田名小学校P T A副会長）	金井 憲一	
16	田名地区老人クラブ連合会	会長	小島 昭二	
17	J A相模原市田名支店運営委員会	市農協理事	田所 茂雄	
18	田名地区ボランティアグループ	代表（市食生活改善推進団体 わかな会田名地区）	浅見 泰子	○
19	田名地域包括支援センター	センター長	矢口 君代	○
20	有識者			

出席（○） 15

欠席（ ） 4

合計 19